



エンジニア/サイエンスプロデューサー

古賀 祐三

aalive.net

日本大学理工学部（CST）で過ごした学生時代を自分の力（十）にかえて、各界で活躍する卒業生にお話を伺う「CST+なひと」。

第一回は、世界中どこにいてもオーロラを生中継で見られるシステム「LIVE! オーロラ」を開発した古賀祐三さん（機械工学科卒）です。

高画質の

オーロラ生中継

独自で契約保有しているアラスカの観測所に開発した撮影・中継装置を設置し、東京のオフィスから6000km離れた場所との安定した通信網を構築、世界中のどこからでも現地の様子を体感できるような仕組みをつくりました。国や大企業のプロジェクト並みのことをアイデアと根性でつくり上げたのです。最近は海外からの利用者がどんどん増えています。僕がこだわっているのは、オーロラを「見せる」ことではなく「体感してもらう」こと。これが一般的なライブカメラとは違う点で、そのために技術や演出技法には常にチャレンジし続けています。

現在、稼働させている生中継は3種類です。そのひとつが「スーパーリアル動画中継」。オーロラは動画撮影がすごく難しいのですが、2006年にメーカーと共同開発した超高感度ビデオカメラを使って、肉眼では見えないオーロラや、流星や人工衛星までとらえています。「全天周ライブ中継」で

は、魚眼レンズを使用したカメラで観測所の空を撮り、その映像をドーム空間にマッピングすることで、現地にいるのと同じような体感ができます。ドーム空間での生中継は、2010年3月に世界で初めて私が成功させました。もうひとつの「微速度動画中継」は、デジタル一眼レフカメラの改造版からの静止画が元なので、高解像度でもきれいな映像が届きます。

WEBやアプリや中継装置もそうですが、上映装置や演出技法、企画や交渉もすべて自分でやっています。

オーロラに

目覚めた大学時代

大学生のとき、アラスカで見たオーロラ大爆発。見上げた瞬間に無数の光の束がズドンと落ちてきて、その場へあたり込んでしまいました。そのときの衝撃があまりにも大きかったので、「オーロラで飯を食っていきたい」という気持ちになりました。

機械工学科を選んだ理由は、応用が利くからです。僕が学生の頃はインターネット創成期で、IT革命なんてまだまだ先の時代。でも出始めのコンピュータを使ったり、機械工学科らしく汗まみれになって作業をしたり、多岐にわたって学べました。「もつと技術を身につけて、自分の道が決まったから自分で動けるようになる」と思い進学した大学院では、スピードスケートの清水宏保選手が研究対象でし

た。モーションキャプチャシステムをつくり、リンクでトレースしたブレードの動きをデータ化し組み合わせた。そして、今ではクラッシュク言語のN88Basicで3Dフレームアニメによる滑走動作のシミュレーション動画を作成し、選手たちに好評をいただきました。当時、清水選手はオリンピックのメダルがかかっていましたから、本気でフィードバックを欲していました。そういう人と学生の頃からかわれたこと、自分でつくりフィードバックするというのをトータルに経験できたことは、大きかったです。

面白い！が原動力

いったんはSEとして就職しましたが、29歳のときに独立しました。しばらくはエンジニアや企画営業として働いていてオーロラからは離れていま



アラスカ観測所屋上の生中継カメラ：EMCCDスーパー超高感度カラーTVカメラ、全天周カメラ、静止画・微速度中継用カメラ、外気温エアタロガー、音声マイク等。(リモートセンシング技術で、どこからでも遠隔操作可能)

たが、「そろそろやらなきゃ」と始めたのがWEBです。オーロラをこちらから伝えるのではなく、一緒に学べるコンテンツ。学び、復習をくりかえしながら「オーロラの仕組み」というコンテンツにまとめて、WEBで発表しました。研究機関から仕事を依頼されるようになって「LIVE! オーロラ」の前身ができ、さらには観測装置づくりもするようになりました。

「LIVE! オーロラ」を始めて6年目になります。事業として大きくしていくのはもちろんですが、「自分が納得できる場所」をいつも探し続けている感じです。そろそろ僕の技術や経験を生かしてほかのことをしてみたいと思います。そこでこだわりたいのが「幸せなこと」に生かすということ。いろんなところにコンテンツの種があります。僕はそういう種を成長させていくのが好きなんです。要

は、自分が面白いと思えるかどうか。自分が面白いと感じることを、これからもやり続けていきます。

こが ゆうそう

- 1970年 愛知県生まれ
- 1990年 日本大学理工学部機械工学科入学
- 1995年 卒業、大学院理工学研究科博士前期課程入学(機械工学専攻)
- 1997年 修了、東芝情報システム(株)入社
- 1999年 退社、フリーランス
- 2004年 尙遊造 設立
- 2006年 「Live! オーロラ」 始動
- 2008年 科学ジャーナリスト賞 受賞
- 2011年 文部科学大臣表彰・科学技術賞(理解増進部門) 受賞



aulive.net

学部長からのメッセージ

好奇心は生きる原動力

理工学部長・物質応用化学科教授

滝戸 俊夫



大学院へ、そして短期大学部へ入学された皆さん、おめでとうございます。新入生の皆さんは、学生生活のスタートに向けて気力が充実

し、勉学への意欲がみなぎっていることでしょうか。そして在学生の皆さんも、この時期はあらためて自分自身の目標を見直す良い時だと思います。

ところで、皆さんが大学で充実した学生生活を過ごすためには、多くの人とコミュニケーションを取ることが大切です。先輩・後輩さらには卒業生などとも触れ合うことで、他者の存在に気づき、その多様性を理解す

ることで人間としての幅が広がります。また、コミュニケーション能力の向上には、大学での勉学はもちろん、世界で生じるさまざまな事象に対して好奇心を持つことも重要です。

チャール・ブトウという心理学者が、「長年にわたり人間性の研究をした結果、優秀な人と凡人との相違は、ひとつの特質の有無で決まることがわかった。それは『好奇心』である。優秀

な人でこの特質のなかった人はないが、凡人でこれを持ち合わせた人も見当たらない」と言っています。好奇心を失えば、生きるための原動力が枯渇し、物事を成し遂げることはおろか、充実した人生を全うすることも不可能となってしまうのです。ですから皆さんには、旺盛な好奇心を持つしてほしいのです。

世界情勢は国際化、情報化が加速し、国家間の枠を超えたグ

ローバリゼーションの時代が到来しています。つまり皆さんは、地球規模の出来事をグローバルな視野からとらえる時代を生きているのです。新聞やインターネットなど、さまざまな情報媒体にも事欠きません。ぜひ皆さんの事象に好奇心を沸かせてください。ただし、情報の真贋を見極める力をつけた上で、情報媒体を利用することを推奨します。